

第1章

第6節 市民の想い

この計画には、たくさんの方の想いが詰まっています。

この計画を策定するにあたっては“野々市らしさ”を再発見することをめざして、白紙の段階から市民参画※による計画策定を実践してきました。

この計画を策定するにあたり、平成21年1月に実施しました意識調査では、市民をはじめ、本市出身の方、中学生、高校生、大学生から多くのご意見をいただき、参考とさせていただきます。

この計画を策定するにあたって設置した“策定審議会”や“作業部会”では、本市が本市らしくあり続けるための施策について、さまざまな貴重なご意見をいただきました。

この計画書に掲載させていただいた、いくつかの写真や絵画は、平成23年5月に開催した次期総合計画策定記念 絵画・写真展に、多くの方からご応募をいただいたものです。

計画策定中に2回実施しましたパブリックコメントでも、多くのご意見やご提言をいただき、参考にさせていただきました。

より多くの市民の想いをこの計画に反映させるため、さまざまな市民参画の取り組みを行いました。

こうして、この計画は出来上がっています。



【審議会委員の想い】

(五十音順、役職・敬称省略)

椿と文化の都市

十年後には、人口54,000人、市の面積13.56平方キロと市域は狭いが、緑が多く、まちなかにある水田や畑も空間として残すべきである。

また、昭和49年に市花木として選定した椿は、現在、市内の公園、神社や家々の庭に数多く植えられている。

十年後には、春の椿まつりでの椿苗の普及により、冬から春へいろいろの花が咲き、心に生きがいを実感できる都市となる。

今後は、街路に椿の木を植えた道路や、市民や地域の管理による椿の小道が計画実行されることを望む。

「文化都市 野々市」ふたつの大学、高校、若い人とスポーツや文化交流、また、生涯学習の充実など、心豊かな生活ができる都市へ。

町から市への転換を機会に、新運動公園や新しい図書館の建設完成を望む。

野々市市文化協会 内村 栄一

山椒は小粒でもピリリツと辛く！

歴史文化の街金沢、自然がいっぱいの白山市、両市に挟まれて悲鳴を上げることなかれ！

野々市市の素晴らしい伝統文化遺産を基に、生活環境、福祉、教育分野等の現代、未来をも加えた観光資源を創出し、人の流れ、にぎわいを創り出す工夫をしよう。

そのためには、通過型観光都市とするのではなく、滞留型、体験型観光都市をめざし、小中高校生の修学研修旅行、ビジネスマン宿泊研修、団塊の世代群を取り込むことも大切。その場合の地域産業への波及効果には絶大なものあり。

20年後カナ？30年後カナ？

野々市市民生委員児童委員協議会 大地原 顕重

調和のとれたまちづくり

私たちは理想郷を描くも、まちが様変わりする状況は好ましくない。ひとつの分野を例に挙げると、中心街のシャッター通り化、そして今日のまちなか再生のためにも苦労している。私たちのまわりに過ぎた優勝劣敗の考えが強すぎると、環境破壊、社会不安を引き起こしかねない。

あまり盛衰を繰り返すことは良くない。歴史や文化を重んじ、近代化と調和のとれたまちづくりと人々の心が豊かさを増し、住みたくなるまち、共存共生できるまちを望みたい。

野々市農業協同組合 金田 誠治



まちづくりには学生の力を

野々市には大学が2校あり、毎年多くの若者が各地から集まってきます。若者は地域活動に関心が薄いといわれますが、野々市では地域のイベントや環境保全活動に、子どもたちやお年寄り交流に、多くの若者が参加して、一緒に地域づくりに取り組んでいます。

地域の人たちは若者に元気をもらい、若者達にとっても地域の人たちにあたたかく迎えられ、よい思い出をもって青春時代を語れるまち、そんな野々市になってほしいと願っています。

石川県立大学 高橋 強

【審議会委員の想い】

野々市市の始まり

野々市町は山も海もない小さな町であったのに、なぜ独立した市にこだわったのか。

それは町民が町の発展に努力した自信から来るものなのか、幸運にも地の利を得て人口が著しく急増したからなのか、また、中世において守護の富樫氏が居住したため、当時の中心地であったという誇りが脈々と続いてきたからなのか。

いずれもそのとおりだと思う。

しかし今日の野々市を強く性格づけたのは、苦しみ抜いて達成した昭和の合併事業にあると、私は思う。

野々市市身体障害者福祉協議会 高橋 吉隆



文化の香り高いまちを

野々市は、謡曲の「安宅」歌舞伎の「勧進帳」の富樫左衛門(泰家)が守護所を構えたまち。近年には、北大路魯山人、細野臺^{たの}が訪れて茶の湯や食を愉しんだ。

古くから能楽や茶の湯が伝えられ、椿の「野々市椿」も茶道で重宝されている。

公民館のサークル活動、学校で学ぶ場が設けられているが、茶会や発表の場を拡大して普及を図る。

家々や道路に市花木の椿が植えられて、茶道、謡曲が普及して、人の和と地域の絆が深まる、文化芸術のまちとなることを期待します。

野々市市連合町内会 藤 力

十年後の野々市

十年後の野々市。考えるだけで胸がわくわくします。

近い将来、公民館、図書館が新しく建てられると思います。その時、一階から三階までを公民館、図書館機能とし、それ以上の階を地域の高齢者の住居とするのです。そして、近くに商業施設を置くのです。それは、小規模でよいのです。

今、現在でも市内中心地では、商業施設のドーナツ化が進み、高齢者の日常の買物先が遠くなり大変苦労している状態です。そしてもうひとつ、高齢者ケアセンターなどがあれば最高です。

野々市市各種女性団体連絡協議会 藤村 恵子

算数・数学のまちをめざして

「算数、数学を学んで面白い!」

「算数、数学を考えるって楽しい!」

野々市の児童生徒が、日々の学びの中で、本気になって学び合う喜び、厳しく学び合う楽しさを実感できるといいなと思います。

そして、頑張った人や考え方の素晴らしい人には「野々市算数・数学賞」が与えられるといいですね。

野々市市小中学校長会 藤森 慎一



【審議会委員の想い】

街のシンボルロード・パークアベニュー

広域貢献型の東西貫通幹線道に加え、南北を貫く都市格を高める高規格都心軸幹線道路が誕生していた。

市庁舎を中心に、地権者、企業、生活者がコンセプトを共有し、協働により田園都市のメインストリートに相応しいパークアベニューとして創造、誕生させた。

「楽しい街歩き」を提唱する道は、内外の人々を魅了し、緑豊かなにぎわいと寛ぎのある街の美しいシンボルロードとして、高く評価されている。

愛され誇りとされる街並みだ。

金城大学短期大学部 帆刈 宏典



心温まるまちづくりをめざして

全国的に人口減少期を迎える中で、新生野々市市がさらに発展するためには、住みよいまちづくりに力を注ぎ、人口減少を食い止める必要があります。

持続可能なコンパクトシティの整備をめざし、倫理性の高い人たちの住むまちにしたいものです。

お金が大切なことは良く分かりますが、これには限界があります。お金以外も大切にする心温まるまちに成長することを何よりも期待します。これには市民各自のたゆまぬ努力が必要でしょう。

石川県 丸山 利輔



幸せの満ちるまち

例えば「現代は家族社会が崩壊」と言われる。いやいや野々市では、強い絆で結ばれた健全な家庭ばかり。

また「地域社会の弱体化」とも言われる。いやいや野々市では、ご近所が仲良く協力し合って安全安心の楽しい地域を創っているよ。

「農業衰退」にも、野々市ではおいしく健康な米、野菜、果物、加工食が生産され、子どもから大学までが農業に取り組んでいるのが自慢だ。

「幸せのまち」とは、現代の否定的な風潮を乗り越えんとする人が、たくさん住む前向きなまちであり、それは野々市そのもののなのだ。

金沢工業大学 水野 一郎



【作業部会員の想い】

(五十音順、敬称省略)

十年後の野々市

今回、この野々市に生活している方々と共に、野々市の現在と未来を話し合い、改めて考える機会をいただきました。

野々市の魅力、そしてこれからの課題などいろいろありましたが、これからもまちに愛着を持つよう心がけ、そして野々市市と共に歩んで行けたらと思います。

時のたつのは早いものです。野々市市となった十年後のまちの姿、市民がどのようになっているか楽しみです。

市職員 石畝 朋宏



「いいとこ」発見

「特徴のないまち」。私が野々市に対して持っていたイメージです。

海も山もなく、目立った場所もないというマイナスのイメージを持っていました。

しかし、今回参加した作業部会を通じていろいろな意見を伺い、また実際にまちを歩いてみると、私の知らなかった野々市の「いいとこ」を次々と発見でき、マイナスのイメージは完全になくなりました。

なぜ今まで気づかなかったのだろうと反省しきりです。と同時に、この発見した野々市の「いいとこ」を多くの人に知ってほしいと思いました。この総合計画が、野々市の「いいとこ」発見につながるものになれば、とても嬉しく思います。

市職員 今村 兼太郎



十年後の魅力のあるまち野々市

魅力のあるまちとはどんなまちなんだろう。考えたとき胸がわくわくします。

魅力あるまちは、個々のまちの歴史の文脈に根ざしたものを守り残し、住人が輝き、活力のあるまちだと思います。

このようなまちでは、住民が自分のまちを愛し、若者が帰ってきて、赤ちゃんからお年寄りまでそろって生活し、向こう三軒両隣が仲良く暮らしている。だからまちには生活感があり、まちの良さが見え、そこに魅力を感じます。

私と同年代の老人会も、家を出てご近所の人と顔を合わすだけで何となく心楽くなるような「あたたかい、ふれあいの会」をめざして、魅力ある野々市市になるよう会員一同で頑張りたいと思います。

公募部会員 加藤 靖二



【作業部会員の想い】



10年後の野々市

「10年後の野々市」は、外国の方々が多く生活し、外国の子どもたちが遊ぶインターナショナルなまち。

野々市にはふたつの大学があり、留学生も多く在籍しています。

現代はインターネットや物流などの進歩により、世界との垣根がなくなっています。

これからは外国語でのコミュニケーションが取れる人材が今以上に必要になります。

未来を担う大切な、ののいちっ子たちを導くのも地域の責任だと思います。

「野々市の中学校を卒業する頃には、英会話ができるようになるよ!!」そんな話ができる「10年後の野々市」になってほしいと思います。

公募部会員 北川 千里



新たな風を求めて

新生の野々市市のスタートにあたり、カメラ・パルの会としても、人と人の絆、地域を愛する心を大切に、市民一人ひとりの思いや夢と一緒に実現していく、野々市市の新たな人づくり、まちづくりのためのボランティア団体をめざします。

情報交流館カメラを拠点に地域の情報化、市民同士の交流、生涯学習、子どもたちの健全育成などをテーマに掲げ、常に新しい風を求めて、プラス思考で一つひとつを具現化していくことがまちづくりの原点だと思います。その思いを形にしていきたいと思っています。

カメラ・パルの会 日下 弘吉



「まち」づくりの合言葉

今、これまでの風潮が見直されつつあります。それは「近所付き合い」です。

コミュニケーションを深めることによって、そこにはコミュニティが生まれます。

この「近所付き合い」が盛んになることが、「まち」づくりの始まりだと感じています。“自分たちの「まち」は自分たちでつくる”を合言葉に、これからスタートする野々市市がさらによい「まち」になるよう、お互いに協力してがんばりましょう。

市職員 熊谷 貴秀

【作業部会員の想い】

10年後の“野々市”に思うこと

現在でも“野々市”は生活に便利なまちだと市民の大半は感じていると思います。

であれば将来の定住率はどうか？

“終^{つい}の住みか”に出来るか？“ふる里”意識を持てるか？もっと住みよいまちをめざして、交通網の整備、また、“道の駅”のような場所の新設など、市民が集える所が出来ればよいと思います。

“ここでよい”から“ここがよい”と感じられる便利で活気あるまちに10年後なっている事を期待します。

公募部会員 佐久間 千恵

十年後の野々市市

野々市のほかにない特長は？と問われて、あなたはいくつ答えられますか？

今は若い人たちが多いけど、十年後もそのまま若いまちと誇れるでしょうか？

定住化を促進していますが、おじいちゃんたちから孫たちへのサイクルがこのまちで図れるでしょうか。

今年、本町地区を突き抜ける旧北国街道の一部が無電柱化されました。

伝統文化地区といわれている本町地区は、今まさに人のサイクルが^{はこ}びかかっている地域かもしれません。

旧北国街道で定期的な歩行者天国を行い、人のサイクルを復興させるモデル地区としてはどうでしょうか。

空き地や空き店舗を活用して、コミュニティ^{あふ}溢れる道路としての活用はどうでしょう。

十年後、天からの声を待つだけの住人意識を捨て、住人自身から動き出すまちづくりができていたらと願います。

公募部会員 田中 陽子

残したい風景

近年、野々市では、住宅地が増え、田園が少なくなり、大きく景観が変わりました。

生活するには便利になりましたが、自然に囲まれた農村風景がなくなりつつあることは、非常に残念に思います。

日本の原風景「広がる水田の向こうに、村の屋敷と山並みを望む」

こういった風景は、古代から昭和の時代まで見る事ができたはずです。

野々市が歩んできた歴史の景観として、永遠に残して欲しいと思います。

市職員 田村 昌宏



2021年のまち

近年、庁舎周辺には商業施設が立ち並び、市内外から人びとが集まり、メイン通りは週末になると渋滞で、一昔前には想像できなかったことです。

十年後、どんなまちになっているのでしょうか。

市民の思いや夢が反映される、活力あるまちを期待します。

十年後も子どもを安心して育てられる環境があり、子どもが健やかにあたたかな心を^{はぐく}育むことができますように。

野々市市家庭教育推進協議会 蓮池 順子

【作業部会員の想い】

十年後の野々市

野々市に住んで、二十年になります。

まちの様子も変わり、子どもたちも大きくなりました。

十年後の私は何をしているのかなと思います。

野々市は、都市の便利さと田舎ののどかさをもっている魅力的なまちです。

何を作り何を残していくかは、これからのまちづくりに重要な視点になると思います。

野々市市になっても、住む人の願いが行政に反映されていく事を望みます。

十年後の野々市も、子どもたちの笑顔でいっぱいでありますように。

野々市市学童保育連絡協議会 早川 雅代

志民の集う野々市市をめざし

「野々市」の良さを一番理解したのは、今回、作業部会に参加した人たちです。そして、何が一番足りないかも理解しました。

「コンパクトシティ」という表現がピッタリの住みやすいまちであることは確か。

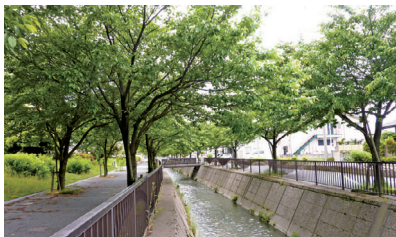
でも、市は、市民によって変わります。

ただの市民ではなく、道徳心のある「志民」が多くいてこそ、本当のよいまちになります。

行政に依存せず、自らが動いてさまざまな問題を解決していくのも志民です。

まずは、自らが志民になります。

株式会社林農産 林 浩陽



災害に強い便利なまち

約1年半、野々市のメリットやデメリットについて話し合い、また、先日、東日本大震災の災害ボランティアに参加し、自然の威力と野々市での生活の便利さを再認識しました。

これから、野々市の魅力である利便性を向上させるため、公共交通体系を充実させ、市民が歩いて生活できる環境を整備し、海も山もない地の利を生かした災害に強いまちであってほしいと思う。

市職員 東 和之



住みたいまちってどんなだろう・・・

普段、何気なく住んでいる自分のまちをこんなにも考えたことがあるでしょうか。「住みたいまち」、「住み続けたいまち」ってどんなまちだろうと本当に考えました。

私なりに分かったのは2つ ①便利であること ②人とのつながりがあることです。

私は子どもを産んでから散歩をするようになり、近所づきあいをするようになりました。

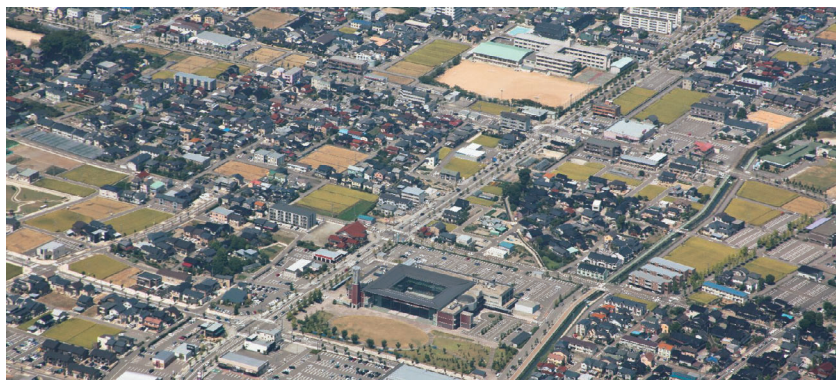
少子化の社会では、近所づきあいがしにくい世の中になっていくのかな～と心配です。

だからこそ、人が温かいまちをめざしていきたいと思いました。

私も歳をとったらそんなまちに住みたいです。

市職員 古谷 亜希子

【作業部会員の想い】



野々市人の住むまちへ

若い人が集うまち。

その反面、新しい市民はまちに愛着を感じていないのではないかと。

この課題を踏まえて、市民と行政が一緒に検討したのが、この総合計画です。行事に参加してもらうことが野々市に愛着を持つことにつながると考え、魅力ある施策について意見を出し合いました。今度はこの計画を市民協働により達成していくことです。

10年後、この計画を通じてまちに愛着を持つ「野々市人」が増えてくればと思います。

市職員 前川 賢吾

野々市といえば〇〇

いよいよ新市のまちづくりが始まります。基本的には“便利で住みやすいまち”“活気あふれるまち”という野々市らしさにますます磨きをかけていければと思います。決して広くはないまちですが、コンパクトだからこそ隅々まで行き届くという強みがあります。

個性がないとよく言われますが、10年後には“野々市といえば〇〇”という誰もが知っている何かがあって、自慢できたらいいですね。

市職員 村尾 卓哉

まちの魅力を増やしていく

今回、総合計画策定の作業にかかわって、野々市の誇れることや欠点などについてメンバーと話し合いをしました。

これらの誇れることをさらに伸ばしたり、不足していることを補ったりすることが、まちの魅力になるのだと感じました。

この10年間で、住んでよかったと思える、魅力満載の野々市市に発展していくことを希望します。

市職員 横浜 猛夫



Photograph まちの風景



春の風景



夏の風景



秋の風景



冬の風景



広がる商業地域



北陸鉄道石川線



野々市中央公園



JR新野々市駅(イメージ)